

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	王立ブータン研究所訪問とティンブー及びハ県でのフィールド調査
氏名 Name	八尾 祐香
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	農学研究科・生物資源経済学専攻・博士後期課程 3年
渡航国 Country	ブータン王国
渡航日程 Travel schedule	2025年 9月 16日 ～ 2025年 9月 29日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航では、ブータンの首都ティンブーおよびハ県においてフィールド調査から情報・データを収集すること、また、王立ブータン研究所を訪問して調査内容や研究について議論を行うことで、博士論文の作成と今後の研究活動につながる成果を得ることを目標とした。

博士後期課程の研究では、「道の駅」の地域振興機能とその発揮の仕組みに着目して、日本（主に京都府）とブータンそれぞれの事例で実態分析している。ブータンの「道の駅」概況は以下のとおりである。

近年、日本の地域振興の成功例の一つとされる「道の駅」が、JICAなどの支援を通じて開発途上国に導入されており、南アジアの小国ブータンにおいてもその導入が進められている。ブータンでは最初に、西部ハ県において、地方行政（ハ県庁）と日本のNGOによる地域開発事業（2015年～2018年）の中で、日本の「道の駅」のコンセプトに基づく観光施設“Haa Visitor Information Centre”が設立された。しかし、農産物・土産品の販売や観光案内による地域振興が期待された中、十分にその機能が果たされていない。その一方で、最近では中央行政主体で、日本の「道の駅」の機能を備えた施設を、“Integrated Roadside Stations”としてブータン各地に設置することが検討されている。

そこで、ハ県の事例で十分に地域振興機能が発揮されない背景を解明するとともに、ブータンにおいて「道の駅」を活用するにあたり、どのような条件や施策が必要なのかを検討するため、渡航調査を実施するに至った。昨年度にもブータンでのフィールド調査を実施しており、今回の調査ではそれを踏まえて追加のデータや情報を収集した。

成果 Outcome

1. 首都ティンブーでの調査・訪問先

① 王立ブータン研究所（Centre for Bhutan & GNH Studies）

今回のブータン渡航では、同研究所を受け入れ先とした。ティンブー滞在中には、調査開始前に同研究所を訪問し、所長の Dasho Karma Ura 氏と面会した他、研究者/スタッフらと議論した。研究についての助言を受け、ティンブーで実施するインタビュー調査のセッティングにあたり協力いただいた。

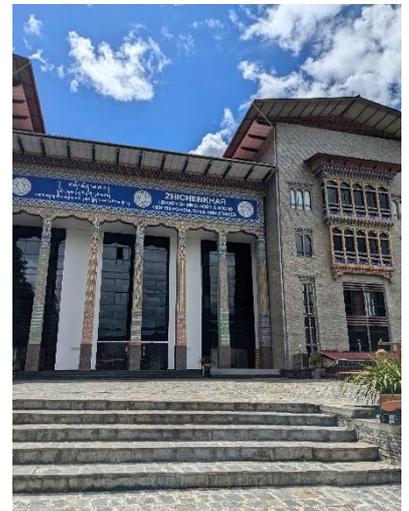


写真1 王立ブータン研究所外観

② 農業畜産省 (Ministry of Agriculture and Livestock)

同省内の協同組合・マーケティング局 (Department of Agricultural Marketing and Cooperatives) を訪問し、局長の Tashi Dorji 氏と面会した。ブータン製品とその流通に関してインタビューし、情報収集を行った。また、同部局の 20 代を中心とした若手職員の方々と交流ができた。

③ JICA ブータン事務所・④ 政府観光局 (Department of Tourism)

政府主体で進められる「道の駅」(the Integrated Roadside Stations) 事業についての情報を収集した。「道の駅」設置が計画されている地域、想定されている機能、運営体制などの他、ブータンの観光政策・制度についても聞き取った。

2. ハ県での調査・訪問先

① ハ県庁・② 道の駅 Haa Visitor Information Centre

ハ県庁を訪問し、県知事や経済開発担当者からお話をうかがった。“Haa Visitor Information Centre” の現状を確認したうえで、今後県庁側では同施設をどのように活用しようかと計画しているのかを聞き取った。また、県内の観光状況に関する資料を収集した。

③ 地域コミュニティにおける調査

ハの中心部にある県庁が管理する市場（日曜日にのみ開場）で、出荷者へのインタビューを行った。この公設市場では、地域住民が農産物や加工品、乳製品を販売している。ハ滞在中には、同市場に出荷している農家の農場も訪問することができた。また、日曜日以外に地域住民が農産物を購入する場所となる、一般商店でも調査を行った。

これらの調査を通じ、ハ地域における農産物流通の全体像をつかむことができた。

今後の展望 Prospects for the future

本渡航調査を通じて、中央行政・地方行政・地域コミュニティという様々なレベルの関係主体に対し調査を実施できた。得られたデータについては、渡航前に国内で実施した日本側関係者（ハ県の地域開発事業に関わった NGO 関係者）へのインタビュー調査の成果と合わせ、ブータンの「道の駅」事業についての分析を進めるため活用する。最終的には、日本の「道の駅」の事例分析とともに、博士論文として取りまとめていく。

また、今回の渡航で省庁や研究所との関係の強化することができた。今後もこうしたつながりを生かし、農村開発あるいは農産物分野での地域開発をテーマに、日本・ブータンをフィールドとした研究を続けたい。



写真2 研究所のスタッフと



写真3 観光局外観



写真4 道の駅 Haa Visitor Information Centre の入り口



写真5 ハ中心部の公設市場での調査



写真6 ハ中心部の野菜販売店舗（バックヤード）